

2022年度提案型助成事業実施報告書

【事業名】

泉大津市資料デジタルアーカイブ事業

【事業者名】

泉大津市

【助成期間】

2022年4月1日～2024年3月31日

【助成金額】

20,322,220円

【事業目的・概要】

泉大津市は令和4年4月に市制施行80周年を迎え、「つむぐひろがる #おづの未来」のキャッチフレーズのもと様々な事業を実施している。コロナ禍を乗り越え、未来に向けての希望を感じる泉大津市を、市民と心を一つに創り上げていくために、本事業を実施する。

泉大津市教育委員会に所属する織編館及び市立図書館がそれぞれ所有する古文書資料、地域産業資料、和漢籍等についてデジタルデータ化を進めインターネット上で公開し、市民に市の歴史を学ぶ機会を新たに創出することを目的とする。

【事業成果】

「ORIAMデジタルストーリー」の公開(URL: <https://adeac.jp/izumiotsu-city-ori-am-history/top/>)

デジタルアーカイブに掲載する資料のデータ化及び目録を作成し、資料化したデータは「ORIAM digital history」を構築し公開した。また、デジタルアーカイブの活用を促進するため、この資料を小中学校の授業で使用するための教員研修及び、調べる学習コンクールの開催、公開フォーラムを実施するなど、広く活用されるように努めた。



ORIAM digital historyのロゴ

泉大津市の歴史にまつわるイラストを入れて構成している

対象資料点数とデジタル化完了後の画像・データ件数は以下の通り。

公開資料及びデータ件数

(1) 泉大津のまちなみ

大正時代から昭和時代頃までの地域の写真を260点掲載。身近な地域の昔の様子を解説文等と共に閲覧できるようにし、小学校の地域学習などでも利用できるようにした。



掲載しているコンテンツの入り口(部分)

(2) 泉大津の産業

本市の主要産業である繊維産業に関する資料の写真を238点掲載した。産業のかつての姿と現在の様子を知り、市の産業に親しむことができるようになった。



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



毛布のデザイン原圖
昭和末
長崎資料 / 織物



(3) くらしの道具

戦前から戦後に、市内や近隣地域で使用されていた民具100点を掲載した。かつて泉大津に暮らした人びとが、どのような自然環境のもと、どのような文化や社会関係をもっていたのかを知ることができる。

(4) 朴齋文庫

泉大津市立図書館が所蔵している貴重書コレクション「朴齋文庫」を1005点の目録を作成し、うち35冊をデータで全頁掲載した。江戸時代から明治時代に刊行された和書・漢籍からなるコレクションである。

(5) 歴史・美術資料

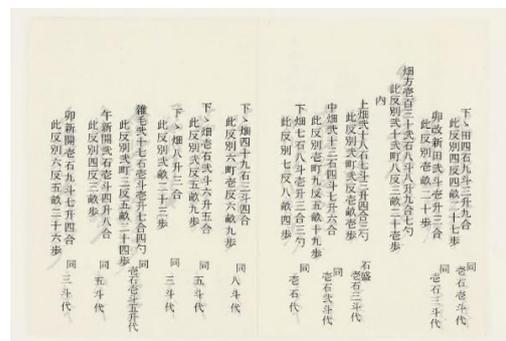
市で所有する重要文化財白地松鶴亀草花文繡箔肩裾小袖を紹介している。

(6) 古文書: 田中家文書

旧助松村の田中家に伝わった文書で、近世～近代の泉大津の姿を明らかにする重要な基礎資料である。本市の歴史を系統的にたどることができることから市指定文化財に指定されており、1190点を公開している。一部の資料は、翻刻を重ね合わせて閲覧できる。



田中家文書



翻刻を重ねている

(7) 古文書: 諸家文書

泉大津市内に伝わるなどした絵図や文書4点を公開している。江戸時代の地域の成り立ちや行政区画、支配関係について知ることができる。



(8) VR: 考古・地域産業・古地図と現在の地図との重ね合わせ

現代の地図に重ね合わせて閲覧できる資料を3点掲載。海岸線や集落の様子を比べてみることで、時代の移り変わりを知ることができる。

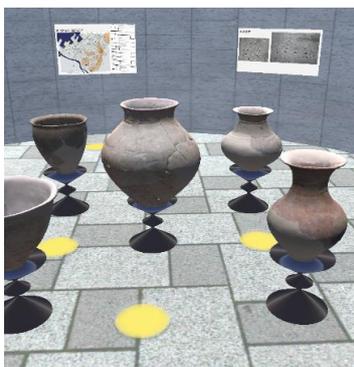
(9) デジタルミュージアム: まち歩き・工場見学

360度画像により、インターネット上で工場見学(4件)ができるほか、市内遺跡で出土した土器(22遺跡を紹介、土器は5点)や地域産業資料をVRで閲覧することができる。



デジタル工場見学

児童生徒らが取り組みやすいよう市のマスコットキャラクターを活用



泉大津の遺跡・土器を紹介



Unity MecGL

VR展示室 毛布の歴史と製造工程

地域産業をデジタルミュージアムで学ぶ

教員向け研修の実施

市内小中学校の教員が、デジタルアーカイブ資料を授業に活用するテクニックを学ぶ研修会を実施した。

実施日時:2023年2月20日 対象:市内小中学校教員

実施日時:2023年11月24日 対象:市立楠小学校教員

なお、本研修会については毎日新聞の取材をうけた。またジャパンサーチからの依頼により、研修会の様子を動画撮影し、ジャパンサーチ公式YouTubeチャンネルにて公開された。

(<https://youtu.be/nGLY-bYjmaM?feature=shared>)



【ジャパンサーチを授業で活用】デジタルアーカイブの教材化ワークショップ

フォーラムの実施

「デジタルアーカイブの可能性と重要性」

2024年3月30日 泉大津市立図書館シープラ

登壇者

新田 一也 氏(株式会社エイブルコンピュータ代表取締役社長)

西口 光夫 氏(豊中市立庄内図書館館長)

調べる学習コンクールの開催

市立図書館にて、調べるコンクールを実施。第28回図書館を使った調べる学習コンクールに出品。「図書館を使った調べる学習活動賞」を受賞した。

【今後の計画と課題】

デジタルアーカイブに掲載しただけで完了するのではなく、継続してサイトの利用が活発になるよう、市内小中学校での授業で活用できるように支援を行っていく。2024年度は市立楠小学校をデジタルアーカイブの活用モデル校と位置づけ、年間をとって支援する。

また新しい資料を掲載していくことが、活用されるサイトとなる大切な条件であると考えているが、資料のデジタル化及び掲載を継続していくことが課題であると考えている。今後も計画的な資料掲載を続けていきたい。

※適宜画像を使用してください